愛知県

「来年も待っています」と握手

ートライアスロン大会救護・ケア活動ー

6 月 12 日（日）、トライアスロン大会の「アイアンマン 70.3 セントレア知多半島 JAPAN」が開催され、今年も事業部員や支部会員 33 名・勤務柔道整復師 17 名・学生 19 名の、総勢 69 名が、レースを終えた選手の救護・ケアにあたった。

この大会は WTC（World Triathlon Corporation）が世界各地で開催しているトライアスロンのシリーズ戦のハーフ版（スイム 1.9km バイク 90.1km、ラン 21.1km の総距離 113.1km＝70.3 マイル）で、日本で唯一、愛知県で開催されている。

7 回目となる今年は 1,703 名の選手がエントリーし、曇天の空模様のなか小雨と風に晒されながら知多市・常滑市・半田市を舞台に戦いを繰り広げた。

午前 7 時 30 分のスイムのスタートから 4 時間。オーストラリアから参加したプロ選手・Mitchell Robins（ミッチェル ロビンス）さんが 04：01：49 で優勝、2 連覇を果たし会場は大いに沸いた。その後選手が続々ゴールし、12 時半頃から本会のブースも混み始め、会員らは懸命に選手と向き合った。なかには昨年と同じ施術者にあたった選手もいて、「ここでケアを受け、帰りには身体がとても楽だった。同じ方にやってもらえるとは感激です」、「来年も待っています」と握手を交わす心温まる場面もあった。

午後 3 時 10 分、受付を終了。その時点で 327 選手が本会のブースを訪れ、設定していた 300 人超えの目標を達成した。会員らは満足感を得るも、今回もまた締め切ったあとにも多くの選手が訪れ、申し訳ない気持ちとともに来年も全員一丸となって頑張ろうと気持ちを新たにした。

本会のこの活動は今年で連続 7 回目となる。5 月 22 日には事業部長らが主催者側との連絡会に参加し、5 月 28 日には会員ら 22 名が常滑市役所で実践的な打合せ会も開催し、万全の体制で当日に臨んだ。大会当日も含めこれらの活動は広く市民や県民にも新聞を通じて広報された。本会の公益事業としても重要な位置づけにあり、さらに充実した活動が期待される。　　広報員　長谷川貴一

2016年（平成28年）5月29日（日曜日）　知多 20　知多版

トライアスロン大会へ救護確認

常滑で整復師ら

トライアスロンの国際大会「アイアンマン70・3セントレア知多半島ジャパン」（中日新聞社共催）で、出場選手の救護ケアに協力する県柔道整復師会の打ち合わせ会が二十八日、常滑市役所であった。

県柔道整復師会の森川伸治会長や、全知多支部を中心にした整復師二十二人が出席。大会実行委事務局員から、六月十二日の大会当日の救護ケアのテントを張る場所や当日のスケジュールを聞き、簡易ベッドの搬入手段や救護スタッフの配置などを協議した。

トライアスロン選手が酷使する体の部位や、発生しやすいけがについて皆で学び、男性をモデルにして救護ケアやストレッチの注意点を皆で確認した。

当日は整復師七十九人が協力。例年、出場選手のうち四百人近くをケアする。

当日使用する簡易ベッドを持ち込みストレッチの方法を確認する整復師たち＝常滑市役所で

中日新聞
23 知多 2016年（平成28年）6月14日（火曜日）

市民の力で鉄人サポート

知多半島で12日にあったトライアスロンの国際大会「アイアンマン70・3セントレア知多半島ジャパン」（中日新聞社共催）では、大勢の市民が沿道から声援を送ったり、ボランティアとして選手をサポートしたりして大会を支えた。（小西数紀、三宅千智、沢田石昌義）

アイアンマンセントレア知多半島

新舞子マリンパーク（知多市）でのスタートに花を添えたのは、和太鼓「百鼓」と太鼓衆「翔鼓」、東明工業「鼓動」の計三グループによる太鼓演奏。百鼓代表の小野曽恵美子さん（六五）は「選手 臓の音と同じよう 鼓をたたいていま

大会を特別協 LIXIL（リ ル）は、知多 （知多市）をバ ースとして提供。

オレンジ色の大会Tシャツを着て、完走者の体をケアする県柔道整復師会メンバーら＝常滑市で

県柔道整復師会の知多地域の会員ら七十九人も、完走者の体を無料でケアするエリアを設営。氷水を入れたビニール袋で体をアイシングしたり、肩や腰をもんだりした。同会理事の小林弘治さん（六四）は「毎年続く行事でメンバーの士気も高い。これからも大会と選手を支えたい」と話した。